

蛸

TOBU

№ 29 5 VII, 1982

百万石蝶談会

HYAKUMANGOKU-TYŌDANKAI

石川県産ゼフィルス川種の分布について

百万石蝶談会

石川県産ゼフィルスについては、既に吉村久貴(1979)により報
№5にてとりまとめられ多方面に利用されているところである。

その後、採卵技術の向上により、ウラゴマダラシジミ・ウラキン
シジミ、オナガシジミ、アイノミドリシジミ、ジョウザンミドリ、
メスアカミドリシジミ……と採卵による新産地が県内各地で発見
され、珍品稀種といわれていた種が、いとも簡単に普通種にランク
落ちしている今日この頃である。

特にウラキン・メスアカの野中、アイノの松井、フジの井村、オ
ナガ・ジョウザンの諸道という名人の出現により、各々得手、不得
手をカバーしあいながら、適当に競走心をあおり他人を意識したの
がこの成果につながったのであろう。

ともかく近き将来、修正しなおしたゼフィルス特集号2弾を期待
することとして、今回は少々違った方向よりゼフィルスを眺めて見
ることとする。

以下に石川県産ゼフィルス川種の分布表を市町村境界線にこだわ
った方法にてプロットしてみた。

凡例

○：文献記録

●：1981年、新たに記録された地区

○：生息は確実だが、正式な報告がないもの

分布表に○●○印をプロットしてみた結果、調査は金沢を中心と
した加賀山地に集中し、能登方面での調査の立ち遅れが極だって目
だつたと河北郡以南でも海岸線に接する地区が未調査であることが
よく理解していただけたと思う。

今後、会員諸兄におかれては、この空白部分を非常に気にして、
●印で塗りつぶさなくては根も柢れぬ方が出てくることを期待しつ
つ……。なお参考文献はスペースの関係上省略した。

(文責・嵯峨井清一郎)

石川県産ゼフィルス11種の分布 (その1)

地名 \ 種名	ウラギマダラシジミ	ウラギンシジミ	ムモンアカシジミ	アカシジミ	ウラナミアカシジミ	オナガシジミ	ミスイロオナガシジミ	ウスイロオナガシジミ	ウスミスジシジミ	ウラクロシジミ	ミドリシジミ	ウスアカミドリシジミ	アイノミドリシジミ	フジミドリシジミ	オオミドリシジミ	エゾミドリシジミ	ジヨウザンミドリシジミ	備考
江沼郡・山内町	○			○			○			○			○					
加賀市				○	○		○				○							
能美郡・根上町																		
〃 森井町																		
〃 辰町				○	○		○				●		○					●辰町産
小松市	○	○			○	●	○		●		○	●		○			●	●金沢市川内町
石川郡・白峰村	○	○		○			○		○	○	○	●	○	○	○	○	○	●市川
〃 尾山村	○	○		○		●	○		○	○	○	○	○	○	○	○	○	●市川
〃 鳥越村	●	●		○		●	○				●		○		●		○	●市川
〃 吉野村	○		○			○	○	○	●	○	○	●	○	○	○	○	○	×市川 中川産
〃 河内村								○	○		○		○				○	
〃 鶴来町	○			○			○		○				○				○	
〃 美川町																		
〃 川北町																		
松任市																		
金沢市	○	○		○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	
河北郡・内灘町																		
〃 津幡町					○		○											●市川
〃 早稲町																		
〃 七尾町																		
〃 高松町																		

石川県産ゼラルス 17種の分布 (その2)

地名 \ 種名	ツラゴマダランジミ	ツラキンランジミ	ムモニアカンジミ	アカンジミ	ツラナミアカンジミ	オナカンジミ	ミズイロオナカンジミ	ツライロオナカンジミ	ツラミスジランジミ	ツラクロランジミ	ミドリランジミ	メスアカミドリランジミ	アイノミドリランジミ	フジミドリランジミ	オオミドリランジミ	エゾミドリランジミ	ジヨウザンミドリランジミ	備考
羽咋郡・押木町				○		○					○				○			おて室達山
志雄町																		
志賀町																		
富来町																		
羽咋市																		
七尾市	○										○							
鹿島郡・鹿島町											○							石山
鹿西町																		
泉寿町																		
田鶴沢町																		
中島町																		
能登町																		
鳳至郡・穴水町																		
門前町																		
能者町															○			
輪島市				○							○				○			高州山
柳田村																		
珠洲郡・内浦町																		
珠洲市				○							○				○			

可愛いおすめ(おすこ?)たち

若下 泰三

3月27日に採卵した卵たちは、4月2日からそろそろ孵化し始めました。可愛いくて可愛いくと、毎日暇さえあれば眺めています。

野中さんに、飼育について電話したところあまりさわれるとつばレちゃうよ——なんて言われたけど、朝起きて昨夜の数と一致するかどうか、残された卵殻数と幼虫の数は同数かなんて、はつきり確認しなくてはどうも不安でたまらなくて、なんだかさわりすぎているような気がします。

こんな具合で今日4月12日までの成績は下記の通り。

	採卵数	卵殻数	幼虫数
アイノドリジミ	10	7	7
ジョウザンヨリジミ	7	5	4
オオヨリジミ	3	2	1
ミズノオナガサジミ	3	3	1

悲しいことに幼虫の数がかなり少ないです。このうちジョウザンは一匹死んでしまったのですがその他はなぜか行方不明。たしかに始めはいたのですが、えさをかえる時いっしょに捨てたので

しょうか。やっぱりつぶれてしまったのかな——。

まだ生まれないものは、アイノ3卵、ジョウザン2卵、オオミドリ1卵はもうだめみたい気がします。

結局、生きている幼虫は全部で13匹だけです。あんまり良い成績じゃなさそうですね。

今日(4月12日)は、嵯峨井さんとこの間採卵した場所へギフチョウの採集に行きました。採集数は18羽2卵でした。そして帰りには、可愛い娘たちのためにミズナラをたくさん取ってきたのです。

嵯峨井氏は苦手だと言いつつも、結構巧みに木に登って枝を落として下さいました。これで多分蛹になるまでに十分だと安心しています。

医王山山塊でのギフチョウ採集例

吉村 久貴

浅野川以北の金沢市内におけるギフチョウの採集例は、金平氏により栃尾(*)があげられています。1981年キゴ山山頂と医王の里、栃尾において数頭採集したので報告します。

○キゴ山山頂

1980年にも破損した雄を確認しているが、1981年5月1日、ミヤマカラスアゲハを採りに行ったおり、4♂1♀を採集。58豪雪で発生が遅れたらしく、やや破損していた。

○ 医王の里

1979年、ミツバツツジに吸蜜にきている本種を目撃していたが、1981年5月13日、1♀を採集。特大の雌でまだ羽化してそれ程経過していない個体であった。1980年にも、医王の里キャンプ場で数頭目撃している。

○ 新尾

1981年4月22日に訪れた時、6♂、同4月26日には4♂を採集した。

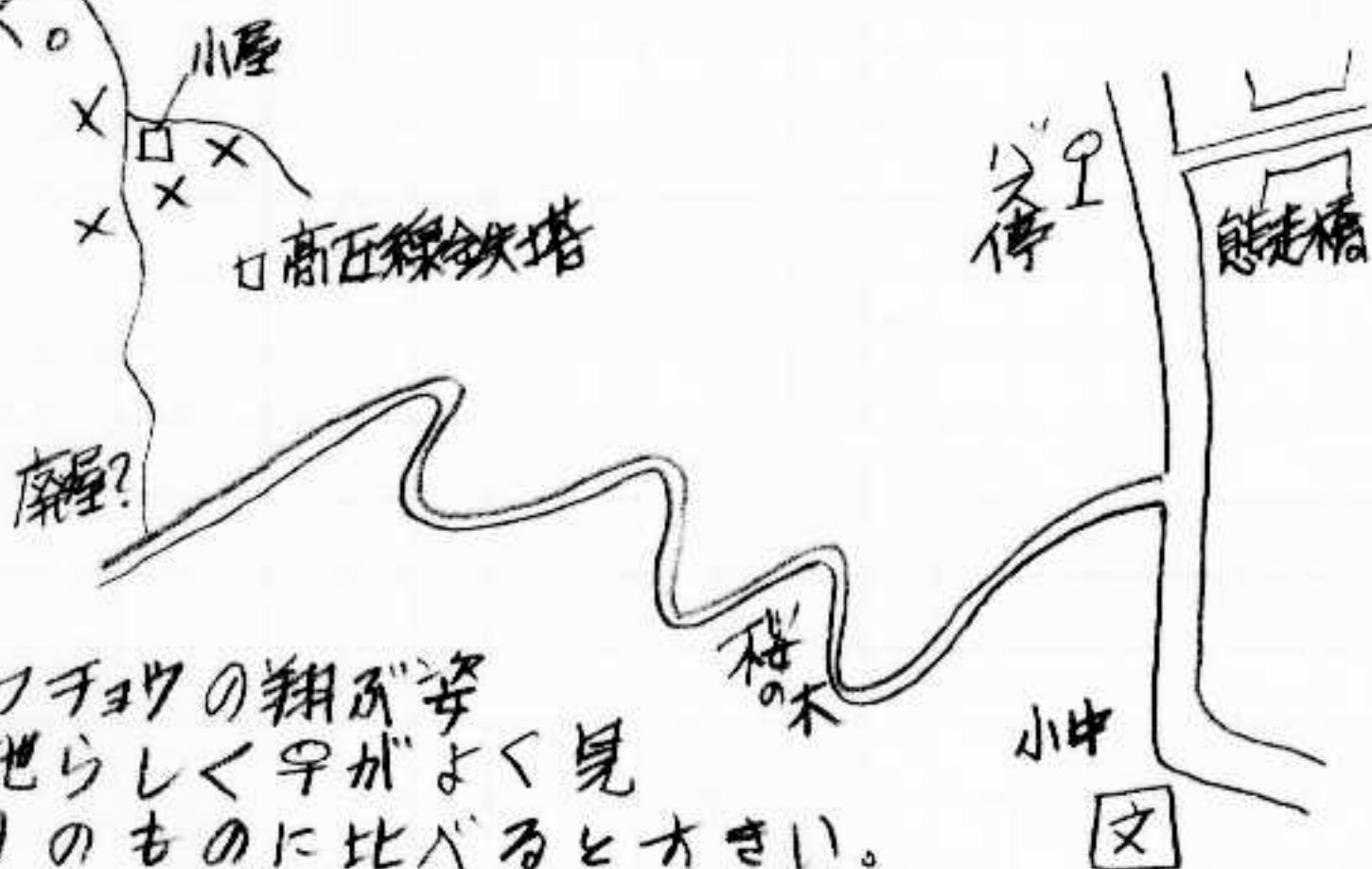
*1. 金平永二 (1979) 採集Xよりその2 翔 NO. 9

金沢市駒師のギフチョウ

吉村 久貴

ギフチョウは、金沢近郊の低山地、渚、三小川あたりに広く分布しているが、筆者は犀川上流の駒師において、本種を過去3年間採集しているので報告しておく。

金沢より犀川ダムに至る街道より、熊走橋の手前で左に折れて登っていくと尾根に出る。高圧線の鉄塔の立っているあたりの樹林された小さな杉の木の下草にもカンアオイがちらほらみられ、ギフチョウの翔姿も見られる。ここは発生地らしく♀がよく見られ、大きさも平栗あたりのものに比べると大きい。



データ

1981, 4. 23	7♂ 1♀
4. 26	1♂ 3♀♀
1980, 4. 20	9♂ 3♀♀
1979, 4. 10	4♂ 2♀♀

広島県加計町のウスバシロチョウ

吉岡 泉

広島市から北へ向かったところにある加計町は、本種ならびにヒロオビミドリシジミなどの産地である。本年（1981年）この加計町においてウスバシロチョウを採集したので報告する。

広島県産のウスバシロチョウは、太平洋側に産するものの特長である自化型であり、石川県産（日本海側産）のものと比べると、明らかに白色部が強いことがわかる。また、大きさにおいてもやや大型となり、一見して違いがわかる。

採集地の環境は、石川県鶴来町と似ており、すぐ近くまで山がせり出した田畑のあぜに多く、一ヶ所で待っていると、次から次へと飛来してきて、1時間に約20頭は採集可能である。

1981. 5. 25 広島県山県郡加計町田ノ原 1338
 " " " 木谷 538

尚、当日の天候は晴れであったが、晴期的にやや曇り、半数以上は汚損していた。したがって、ホロボロの個体は採集せず、比較的きれいな個体のみ採集したので晴期さえうまくなれば、倍近くは採集可能であると思う。

最後にその他採集したものを付記しておく。

カラスアゲム 1♀ サンショウに産卵中のもの
 オナガアゲム 238
 サカハチチョウ（春型） 1♀

1981年の採写真より

諸道 秀人

筆者にとって1981年は、新津市より大津市へ移住したことにより変化のある年であった。写真撮影のやりかたを練ることになる。

1. 新津のギフチョウの食草は、弥彦駅近辺ではコシノカンアオイ（幼虫を撮影）であり、磐城西線の五十嵐付近ではヒメカンアオイ（卵を撮影）である。
2. 磐城西線では、新関（新津市）のホシミスジや福島県尾登のクジャクチョウの大量発生や、尾登のオオミスジの早の吸水（ただし地面ではなくイチゴの葉にたまった水）撮影などが目についた。
3. 妙高池ノ平のイモリ池の周囲にはえているハンノキは、ミドリ

シジミの大量発生によって丸坊主であった。

4. 7月26日、越後湯沢の大峰山頂では、サカハチチョウの春型・夏型・秋型の混飛が見られた。
5. 8月11日、白馬八方尾根に登ったが（ロープウェイとリフト）山頂はガスでゴマンシジミ1頭しか確認できず。本年の日曜は天候が悪く、撮影にはよくなかった。
6. 大津市上田上牧町、9月23日に、大津市ではじめてナガサキアゲハの雌を撮影した。
この頃は、平地に数多くのアサギマダラの古♀が見られ、メスグロヒョウモンの雌が非常に多い。

1982年1月より大津市役所の職員となったので、今年はもっと良い結果が得られるであろう。

なお、小生のカメラAE-1は下取りに出し、A-1を購入した。その他400mm望遠やマクロフォト25mm等のレンズやモータードライブなどを入れたので、網は近くの親戚の手にくれてやった。

ゼフィルスの採卵

諸道 秀人

今シーズン（1981年12月～1982年1月）は、ゼフィルスの採卵が三シーズン目でもあり、また、裏日本より表日本に移住し、生活環境が変わったが、前年までの経験をもとにいろいろ行ってみた。

- 1981年12月6日、滋賀県大津市上田上桐生辻

自宅の近所の山の一角より信楽にかけて、マンサクがあり、県道上にはり出した枝よりウラクロシジミ3卵を得た。

この辺のマンサクはマルバマンサクと異なり、葉は平行四辺形から菱形に近く、大きさも大きく、葉は手のひら大のもあり、樹高も1mはあり、樹幹の直径は15cmくらいある。

- 1981年12月7日、滋賀県坂田郡伊吹町・姉川流域（伊吹山の奥）

この辺りは、裏日本型の気候で降雪量も多い。

曲谷では、オニグルミよりオナガンシジミ7卵（注・滋賀県では、1939.8.22井筒文雄が伊吹山より1頭の記録があるのみで、本地区はそこから30km近く離れている。）イボタよりウラゴマダラシジミ44卵（人家のイボタのかき根の4本がいずれも数10～数100卵をだしていた）、オオムラサキ幼虫2頭（ここではゴマダラ43羽はい

なかった。)、コムラサキ幼虫1頭を得た。

去観では、藪山のショボフレたコナラよりオオミドリ4卵(うち1卵寄生)を得た。

- ・1981年12月17日 滋賀県滋賀郡志賀町・比叡山スキー場

関西地方におけるゼフィルスのメッカで、金沢の医王山と共通した種が多いが、スキーのあいまにジョウザミドリ4卵を得た。

- ・1981年12月23日 京都府宇治市茨山

大津市大石曾束より山越えしたところで自宅よりDAX50で30分の場所であり、数少ないナラガシワのうち一枝よりウラジロミドリ1卵、ミズイロオナガシジミ1卵を得た。

- ・1982年1月3日 滋賀県神崎郡永源寺町・八風街道

塚本君(筆者の従弟)の車で野中氏のポイントを目ざすが、途中でGIVE UP. レカレー面のアカガシ林よりキリシマミドリ1卵を得た。その後、氏の家で酒飲んでドンチンドンチャン。

- ・1982年1月31日 兵庫県津名郡北淡町江崎(淡路島)

松田俊郎氏の厚意により入手したMDK-NEWSの情報で、出かけたナラガシワは10数本しかなく、目的のヒロオビミドリ、ダイセン・ウスイロオナガは採れず、ウラジロミドリ4卵、ミズイロオナガ9卵であった。関西ではウラジロミドリは、非常に多く、ナラガシワには集中して産付されている。

標本乾燥法についてチョット……

金ヲ ニク

人は僕の事をセッカチだと云う。それは、出てこないキリシマミドリの卵を熱湯煮めにしたり、卵を産まないクモツキを白熱燈であぶったりするから、そんな噂がたったのかも知れない。

しかし、やりたい事の多くて(採りたい、見たい、並べたい……)、残り時間の少ない人間なら仕方あるまい。そんな人間には到底耐えられない事を良く見聞させる。

採ってきた蝶(人によってはキタナイ蝶)を展翅板の上で3ヶ月も、人によっては1年もおいておくと云う。そんな人達は展翅板を拭いてニヤニヤしているのだろうか。眼光の紙脅に徹せられない僕は、何とか早くテープをはずせないかといろいろ工夫してみた。その2,3を記し参考に供したい。

◆ 牧野植物大図鑑・日本産虫類大図鑑・日本産カミキリ大図鑑・日本近縁種大図鑑 etc 立派な大図鑑の発行予定が自由押しで、昆虫をやる人にとっては、どれもこれも一冊は本棚に並べて眺めたいしシロモノばかりである。

この内、前者の牧野植物一は、既に店頭で並んでいて好評(?)を呼んでいるが、何でも間違いが、2〜30箇所もあり、牧野博士の遺族らが発売停止の仮処分申請をしている由。高価なシロモノだけに問題は大きいが、この件に関して、牧野一族と北隆館側との間にイザコザがあるみたい。

◆ "昆虫と自然"の副題。地方同好会特集なる増刊号が出されたが、

「北陸地方の蝶・トノボ・甲虫について」と題して、武藤明・石川はしの会幹事氏が、例による例の言回りで書いている。全体の構成が「北陸の蝶」に似かよっていて、イヤだなー。執筆の自由、何をめがすか、という声が聞こえてきそう。

それにしても「昆虫と自然」は特集号で、発行傾向が強く(商業誌だからやむを得ず)全国のムシから不評をかっているが、げんに編集人の友人の多数はこの手の雑誌を買わない人が多い。松井正人氏もその一人だぞ。編集人のように、おもしろくない・高いと思いつながら買っている馬鹿は、ホントに馬鹿だ。この頃は、「月刊はし」の方がまだおもしろく読むところがあるように思える。

目

次

石川県産ゼフィルス19種の分布について-----	百万石蝶談会-----	1
可愛いおすすめ(おすこ?)たち-----	岩下泰子-----	4
医王山山塊でのギフチョウ採集例-----	吉村久貴-----	4
金沢市駒帰のギフチョウ-----	吉村久貴-----	5
な島県加計町のウスバシロチョウ-----	吉岡 泉-----	6
1981年の採写真より-----	諸道秀人-----	6
ゼフィルスの採卵-----	諸道秀人-----	7
標本乾燥法についてチョット.....	金子ニ久-----	8

期 No 29

1982年7月5日(月)発行

発行: 金沢市三口新町4-9-33・松井正人方

校正・編集: 百万石蝶談会
嵯峨井 淳郎